市報ぎょうだ
No.807
平成25年9月1日発行

行田 歴史系譜 234

いにしえの行田を探る 6

行田のムラの古代のマツリ

「市報ぎょうだ」6月号で、古墳時代前期（4～5世紀前半）の市内の集落の移り変わりを紹介しましたが、そのころの竪穴住居を発掘すると、実用品とは思えない小型の土器がまとまって出土することがあります。それらの土器には、大型のかめやつぼを小さく模造したもの（写真右端）、小さな鉢やおわんをつくったもの（写真右から2番目）などがあります。まるで子どもが「ままごと」に使うようなミニチュア土器ですが、川沿いなどからもまとまって出土することがあるので、水などにまつわる何らかの儀式（祭祀）で使われた土器ではないかと思われます。

また、小型で丸底のつぼとそれを乗せる「器台」と呼ばれる小型の土器がセット（写真中央）で出土することがあります。この小型のつぼと器台はベンガラなどで赤く塗られているものが多いことから、ミニチュア土器と同様に、祭祀で使われた土器ではないかと思われます。武良内遺跡（樋上）からはヒョウタンの形をした珍しい小型のつぼ（写真左から2番目上）も出土しています。

祭祀用の土器は小型の土器ばかりではありません。実用品と同様のつぼや高杯でも赤く塗られているものがあり、武良内遺跡では井戸の底から赤く塗られたつぼが出土しています（写真左端）。行田市内では、古墳時代前期から井戸が掘られるようになりましたが、赤く塗られた土器を井戸に沈め、水が枯れないように祭祀を行っていたものと思われます。

古墳時代前期の集落は、今回紹介した祭祀用の土器などを用いて、さまざまな祭祀が執り行われていたものと推測されます。もしかしたら、現在失なわれつつあるさまざまな地域の祭礼の原型がこの時期に形づくられたのかもしれません。

（文化財保護課　中島　洋一）

祭祀に使われた土器（武良内遺跡）

こぜにちゃんが行く！ with フラベえ

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物施設などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

稲荷山古墳

稲荷山古墳は、5世紀後半に造られた全長約120メートル、高さ約12メートルの前方後円墳で、古代国家成立の謎を解く貴重な資料「金錯銘鉄剣」が出土したことでも知られているんだ。

また、墳丘の頂上に登ることができ、頂上部には鉄剣などが出土した実物大の礫槨が展示されているよ。この場所で百年に一度の大発見ともいわれる鉄剣が出土したと思うと、古代を身近に感じることができます。

皆さん、壮大で古代ロマンあふれる稲荷山古墳に遊びに来てくださいね。

今月の表紙　総勢約900人の協力をいただいた田んぼアート米づくり体験事業（田植え作業）。日本にそして世界に誇れる田んぼアートが見ごろを迎えました。

今年の絵柄は「古代蓮の精」。行田蓮（古代蓮）の上に美しい女性の姿が描かれました。壮大ですてきなアートを古代蓮会館展望室からぜひご覧ください。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線 318）まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報を CD―R に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線 318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK 環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601　行田市本丸2番5号
TEL 556―1111　FAX 550―2116